

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の職員で作成された「私たちの理念」を、毎朝の朝礼時に皆で唱和し実践に繋げている。	法人理念と行動指針をもとに事業所独自の理念を作成、朝礼時の唱和を通して利用者支援への意識付けを行っている。行動指針の中でどの項目に力を入れて行くのか目標は職員が決めて笑顔で寄り添う介護を実践している。目標の評価は年2回行なわれ、会議や自己評価の中にて振り返りを行っている。毎朝、理念を唱和することで日々の業務に反映させ、職員間で共有を図りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の朝清掃に参加。現在は新型コロナウイルス流行中の為、事業所の行事に地域住民やボランティアの方に来ていただくことができません。	コロナ過により地域との交流の機会は減少しているが近所の農家より採れた野菜が届くこともあり、また2ヶ月に1回の地域の朝清掃は職員が参加している。防災関連では災害協力員をお願いしていたが、現在は地域の消防団とのつながりを継続している。可能な限り地域の役割を担いながら、職員は交流を絶やさないよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス流行中の為、地域の人々への発信はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回奇数月に開催しているが、今年度は書面開催となっている。	会議は書面にて開催され、2ヶ月毎に行っている。民生委員、地域代表、地域包括職員、家族代表、事業所代表で構成され、予め電話にて連絡後、お便りとともに事業報告を含む会議要項を送付している。過去には事業所の行事と抱き合わせにて開催することもあった。書面開催であり会議録は作成していない。また会議案内は利用者の全家族に送付し、事業についての理解と周知を図っている。	定期的に会議は開催されているが消化会議とならないよう、有効にこの機会を活用し、事業運営について意見を頂く機会と捉えることが求められる。面会制限のある中、利用者の様子が見えず、不安をお持ちのご家族に向け、事業所からの報告に終始せず、積極的に意見を頂く機会となるよう、この時期だからこそ発信して行くことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事や相談事を市の担当者に連絡を取り、解決に繋がるよう連携を図っている。	市職員より運営推進会議の参加があり、事業運営等、事業所の理解を深めている。利用者相談についても助言をもらい協力関係を築いている。入所間もない方が精神面で不穏となり、窓より外に出してしまった事例があり、報告を行いその後のフォローも頂いた。今後の事故防止の参考にしながら事業所より進んで協力関係を築くよう連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会を設置し、事業所・法人全体で勉強会が行われ、認識を持って業務に取り組んでいる。	法人内で高齢者虐待防止身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束をしない取り組みや研修会を行なっている。研修会は全員参加を原則としており、マニュアルも定期的に見直しが行なわれ、第四版改正に及んでいる。職員より不適切ケアについて書き出してもらい、会議にて検討するなど、職員間で身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会を中心として、勉強会の実施、独自のアンケートを行い、不適切ケア報告書を活用しながら自己のケアの振り返りを行っている。	法人の委員会を中心に虐待防止に取り組んでいる。法人研修は全員参加とし、参加後の報告書提出が原則にしており自己評価に繋げている。ストレスチェックは年1回実施され、結果は法人内の保健師により、重症化の防止に向け、相談が出来る体制を整えている。メンタルヘルス研修会を行い、自己チェックを通して精神面の健康維持に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得の際に研修で学んでいる。利用案内の説明文及びその家族に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、料金改正や加算など、説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族に顧客満足度のアンケートを実施している。直接言いにくい事も書いていただけるようになっている。その結果や要望について話し合い、ケアの向上や運営に反映させている。また、随時利用者や家族に意見や要望がないか聞いている。	家族に向けて、年1回アンケートを実施し、結果を玄関、廊下など、部外者の目に触れるよう掲示している。今回の調査では家族より、本人の様子が分からないというような意見がいつもより多く寄せられ、対応策として11月より、玄関の空きスペースを工夫し、15分程度ではあるが面会を可能とし、家族の安心が得られるよう対応している。地域の感染状態を見ながら実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議や面接の他、ミーティングなど話し合いの場を設けている。意見や提案は必ず反映できるよう話し合いの場を設けている。	定期的な部署会議や職員の個人面接時に意見を聞く機会を設け、働きやすい環境作りに努めている。休暇を取り易くする工夫、食事作りや買い物など、手間を要することから、出来る限り、介護に専念したいという職員意見を取り入れ、「食材業者を利用」の対応を迅速に行うなど、事業運営に職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場の状況を把握し、職員の努力や実績、勤務状況も理解している。また、個々に面接を行い問題や悩みを聞き解決に向けた助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会があり、新人職員には育成担当者を付け、チーム全体で育成している。希望する研修には参加出来るよう、勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のグループホーム連絡会があり、2か月に1回、定期的に交流、情報交換の機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困りごとはあるか、望む生活をお聞きし職員間で話し合い、本人が安心できるような環境づくりや、関わりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になり、話を傾聴し、不安や困りごとを把握し対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前事前面接から初回プランを作成し、3、4週間後状態を見ながら初回プランの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するという意識を持ち、本人の出来ること、得意とすることを支援し、役割を持っていただき、介護される側、介護する側ではなく、助け合うようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に報告や相談を行い、要望などをお聞きし、協力をいただきながら本人を支えるようにしている。	入所間もない方の、環境の変化による食欲低下と偏食傾向の方に対して、家族と相談を行いアドバイスによりパンを提供することで回復に繋がった。また受診には家族の協力をお願いする方もおられる。個々の希望により往診の方、家族送迎の方もおられ、家族の要望や本人の希望を大切にしながら協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス流行中のため面会や外出はできないが、電話やZOOM面会、手紙のやり取りを通して馴染みの人との関係継続の支援を行っている。	馴染みの関係作りに「ズーム」での面会を取り入れ、遠く離れた海外の家族と交流を行う利用者もおられる。手紙を通して今までの関係を継続している方や、玄関特設スペースでの面会など、事業所として様々な選択肢を設けながら、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を把握しており、時に職員が間に入り利用者同士が楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後について、家族様が不安に感じた時や、入院時など、必要時には病院や次の入居施設などと連絡を取り合い、相談に乗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の想い、希望の把握に努めている。困難な方には家族様からの情報収集やアセスメントから把握できるよう努めている。	入所時にセンター方式の「くらしの情報」を抜粋し、身体、精神、思い、環境等、今までの生活の様子が分かるよう、家族に記入をお願いしながら意向の把握に努めている。不足なところは日々の介護支援の中で、何気なく聞く言葉の中から思いを知ることにも努めている。それらをアセスメントシートに落としながら職員間で共有を図っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わり、家族様からの話の中で、これまでの生活の把握に努め共有している。また、センター方式シートを、家族様に書いていただくことでこれまでの生活を把握できるよう行っている。	入所時にセンター方式の一部のシートを使い家族に聞きながら、これまでの暮らしの把握に努めている。また初回の面接は自宅訪問にて生活の様子を確認している。髪を染めたい、馴染みの床屋に行きたい等、ケアマネジャーや家族より情報を得て、今まで生きてきた軌跡を追いながら把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りの中などで共有し、把握している。必要に応じてミーティングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行っている。本人や家族様からの意向や希望も確認し、他職種からの意見も聞き、本人の状態に応じてプランに反映している。	入所1ヶ月の間で、暫定プランを作成している。利用者の意向確認や希望・行動などからくみ取り、その後は3ヶ月毎にモニタリングを行い見直しも実施している。往診医にプランを届けてアドバイスを頂くなどしており、コロナ禍の現在、家族には電話や玄関先コーナーでの面会時に確認し同意を得ている。また、ズーム使用で、毎日のように家族との話などで利用している方もおられ、コロナ禍の中でも意向の確認は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施状況や気づきを記録に残し、情報を共有するとともに介護計画書の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの看取りを家族様、医師等との連携により、行うことができている。本人の状態、希望、家族様の要望などに柔軟に対応できるよう他部署への相談、協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス流行前は歌謡ショー、笑いヨガ等のボランティアに来ていただいたり、災害時の地域住民、地域消防団からの協力体制が整えられたりしていた。現在は行えていないが、事業所内で行える企画を実施して楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医のある方は、継続して受診を行っている。また、その時々状態に合わせて、家族様、主治医と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医師への受診継続されている方と、協力医療病院や協力歯科医への受診など希望により家族と共に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定値を記入し、看護職に定期的にチェックを行ってもらっている。また、日常のわずかな変化も気付いたことは、相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時には普段の様子も伝えている。入院中の経過、退院後の注意等も退院前に行われる医師・看護師とのカンファレンスにて確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期になっても、可能な限りグループホームで暮らしていける支援が出来るよう本人、家族様と話し合っている。主治医とも相談しながら、グループホームで出来ることを、本人、家族様、医師と連携を取りながら行っている。	入居時に事業所で、重度化や看取りに取り組んでいることを伝えており、要介護3になった時点で、本人と家族と話し合いを行い、看取りの確認をし、その後医師より看取りの時期との話が出た時に、家族の確認と同意書を頂いている。看取りのマニュアルは法人統一した様式が用意されている。この夏、看取りのケアを行い、医師や訪看との連絡や気づきを職員で話し合いまとめた。希望があれば、住み慣れた事業所で、望むその人らしい生活の実現へと取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受け、基本を学んでいる。マニュアルを作成し確認できるようにしている。緊急時には連絡網を回し、対応できるようにしている。	全職員が救急法の研修に参加している。コロナウイルスへの安全予防のため、連絡網の再度の確認を行っている。防災に関するフローチャートは事務室に貼り付け常に確認している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立ち合いのもと、訓練を行っている。現在コロナウイルス流行中のため、地域の方々、地域消防団の方に参加していただかず。	例年は消防署立会いの下での訓練、事業所の避難訓練に地域消防団が参加し、避難訓練や消火器の設置場所確認などとともに、事業所からは車いすの使用方法を学ばれるなど相互協力が実施されている。地域の訓練には、職員が2名参加するなど、交流が図られてきたが、今年は難しい状況であった。今後災害時は他の施設へ移動することも考えており、防災頭巾や名前の確認方法など、実践的な訓練からの工夫やアイデア等、訓練・対策が一つ一つ実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合った対応や声かけをし、考え方を尊重しながら関わりを持つようになっている。	プライバシー保護に関する研修を今年は動画で行った。プライバシーが守られているか？、不適切なケアにつながらないか？、ケアの振り返りの中で、職員が話し合いながら確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心がけ、本人の希望や思いを言いやすい環境を作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で個々の意思確認をしながら出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問利用で髪を切ったり、髪染めを行ったり、その方らしくいられるよう支援している。必要時には、介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、旬を感じながら食事を楽しんでもらっている。また、その方に合った役割を行っていただけるよう支援している。	食材料は業者のメニューから週1回注文し配達を利用している。別メニュー等もあり、楽しむことが出来る工夫がされている。また、利用者の家族からも畑の贈り物が届く時もあり、利用者が参加され、菜飯やもう一品の懐かしい小皿が付くこともあり楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量、体調に応じた栄養摂取が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに合った口腔ケアを、声かけやお手伝いを行うことで、清潔の保持を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、個々にあった声かけやトイレ誘導を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、記録を記入し声掛けのタイミングや誘導などを行っている。パット等の工夫などをしながらトイレでの排泄や支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境をよくするため、ヤクルトを使用し、排便を促している。また、朝食後に排便が出やすいため、トイレへの声かけ、誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞きながら入浴していただいている。	週2回の入浴を行っている。拒否気味な利用者もおられるが、朝入浴・夕方入浴など時間を変えたり、今日はシャワー浴のみなど希望や好みに添う時もあり、無理せず楽しみな時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりに合った生活習慣、状態に合った休息・就寝を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用・用法・用量については、全職員が理解している。状態が変化した場合は医師や看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に合わせた余暇活動や役割を提供している。季節やその時々合った楽しみの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス流行中の為、買い物等の外出はできず。施設周りの散歩や花摘みには行っている。	以前は食材の買い物やドライブや誕生日に好みの蕎麦屋へ外食など、普通の生活の中で行われていたが、コロナ禍の現在、食材の購入方法も変わり、日々の外出支援は受診時位となっている。事業所の周りは、大きな樹木に囲まれており、天気の良い時期は散歩が楽しみとなっている。	コロナ禍の現在、日常的な外出は難しい時期が多くあり、近くの散歩も天候が難しい状況があり、椅子に座っている時間が多くなりがちである。今後は、春の良い季節に外出や外食などの楽しみが維持出来るよう、利用者の心身の状態にあった機能訓練や生活の中での継続した楽しみな時間を持つてするようなケアや支援が行われるよう期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の持ち込みや預かりは行っていないが、買い物の希望があった際は、家族と相談しながら立替で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ないところ、わからないところを職員が手伝い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花などを置き、安全面にも配慮しながら環境作りを行っている。	事業所は開所18年目、内装工事や壁紙張り替えなどを行なわれているが、天窓からの日差しが入り明るくきれいに清掃されている。食堂テーブルや椅子も買い換え、使いやすいよう配置されている。廊下やコーナーには、色合いの良い長椅子が置かれ、一人時間や家族等でも居心地良く過ごせるよう工夫されている。また、これからの季節には必要な、室内洗濯干し場があり生活への支援と工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士の関係性を職員が把握しており、声かけや居室への案内で思い思いに過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや使い慣れたものを持ってきていただき、その方らしい居室作りを心がけている。	居室内は、利用者の作品や写真・家族との思いでの品々が置かれている。リネン交換や居室清掃も出来るだけ利用者にも参加していただけるよう支援につとめている。携帯電話持参の方もおられ、今年は家族に確認し、本人に聞いて入れ替えなどを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場などには分かりやすいよう表示したり、手すりを設置している。気になる箇所については職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		